



ハートフルナース

3年半ぶり

インドネシアにてセミナーを開催

約300名が参加

2022年9月13日(火)

にインドネシア国バンジャルマシン市内のホテルにおいて、JAMNAプログラムのご紹介や当法人主催のセミナーを開催しました。セミナーでは、インドネシアが今後抱える高齢化問題にフォーカスし、2つの講演を行いました。看護学生を中心に約300名が参加され、盛況のうちに閉会しました。



講演に込めた想いとは

「高齢者に対する運動療法」

講演者 森山善文

インドネシアでは、脳卒中や心疾患、糖尿病といった生活習慣病による死亡者数の増加や、高齢者の運動機能低下によるフレイル・サルコペニアといった問題が大きくなっています。しかし、健康のために運動習慣を取り入れようという考えはあまりみられないので、日本の考え方を伝えることは大切です。

特に、生活を健康的に整えていく役割のある看護師や看護学生にはぜひ知ってもらいたい考え方です。

JAMNAの設立趣旨の一つ

に「日本式医療を普及させることで医療水準の向上に貢献する」という目的があります。運動療法の講演をインドネシアの看護学生へ行うことを通して、運動習慣への意識が向上していくことを願い、今後も講義を継続して行っていききたいと思えます。

「介護とは何か ～認知症ケアから考える～」

講演者 河合千恵子

インドネシアでは、平均寿命が急激に高くなってきており、高齢者への関心が高まっています。しかし平均寿命が70歳前後ですので、認知症と言っても重症の方は少ない現状です。また、高齢の方の中には、認知症の症状が表れていても、周囲の理解を得られていない方が多くいます。インドネシアでは今後、平均寿命が延び、認知症にまつわる問題が表面化すると推測されます。ケアをする介護士、看護師や家族が認知症の方への対応に困ることも予測



講演の様子 (河合千恵子)



講演の様子 (森山善文)

(裏面へ続く)

されます。

本講演では、認知症やケアの方法についてケーススタディを用いながら、医療従事者として認知症患者との関わり方をお伝えしました。

認知症患者と向き合う中で重要なのは、相手を思いやるマインドです。ここが備わっていない方は技術に身に着けても、良いケアにはなりません。脳の障害によって引き起こされている行動を否定されたらどう感じるか、またどのようにかかわればよいのか、知識を伝えていくことで、最初は他人事に感じていた様子の参加者も意識が変わっていくのを感じました。

日本と同様、インドネシアでも介護に対する意識が定着するには時間がかかると思います。今後も高齢者ケアについての講習を提供し、日本の技術の普及促進に努めて参ります。

2022年度 再受験支援プログラム報告

JAMNA 研究員 小笠原広実

2022年度の再受験支援プログラムには5名の応募があり、7月のジャカルタでの第1次選抜試験に4名が受験し3名が合格。その後、オンラインでの学習会を開催し、10月には第2次選抜試験を実施し3名が合格。2月に2年ぶりの来日受験が実現しました。今回は惜しくも合格はかきませんでしたが、受験終了直後から、来年に向けて対策を考えるなど、前向きに取り組んでい

る受験者もいました。

今回支援した3名は、インドネシアに駐在している日本人がよく利用しているクリニックや保険会社で、看護師や通訳として活躍している人たちです。そして日本で看護師として働いて家族を呼び寄せ一緒に暮らしたいという強い願いを持っています。しかし、通勤にはひどい渋滞のために毎日2〜3時間を要し、平日に勉強時間を確保するのは至難の業です。それでも、仕事の合間やバスの中でスマホのアプリを使い、過去問題に取り組むなどの努力をしています。

すでに基本的な医療・看護の知識は学習しているのですが、今後合格するためには、日本語の微妙なニュアンスを読み取る力、長文の中からポイントを読み解く力が不可欠です。また日本独自の介護保険制度や、地域包括ケアシステムの正しい理解が求められます。

応募者たちの合格への強い思いを、今後も支えていきたいと思っています。



来日した3名と記念写真



勉強の様子

